

# 日本人権教育研究学会 第4回研究発表大会記事

## 大会概要

1. 期 日 2004年1月24日(土)
2. 会 場 兵庫教育大学
3. 日 程

10:00	10:30	12:00	13:00	16:00	16:30
受付	研究発表	理事会 昼食	シンポジウム	総会	

## 大会趣旨

---

「人権教育・啓発促進法」施行、そして政府による基本計画の発表を受けて、各地の自治体でも人権教育、啓発に関わる方針、指針等の策定が進んでいる。しかし、「人権教育」とは何か。百花繚乱の人権に対する考え方、道徳教育の人権教育への読み替え、マイノリティーの教育権保障や「主体形成」抜きの啓発中心主義、グローバルな諸問題への関心の低さなどは、いまあらためて「人権教育とは何か」を議論することの必要性を提起してはまいか。人権教育を取り巻く状況がこのような今こそ、学校教育・社会教育で重要な役割を果たしてきた人権教育の内容構成を再確認する必要があるだろう。政府は「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」を立ち上げている。本大会では、21世紀「人権の世紀」に求められている人権教育のあり方・内実を探求していきたい。

---

## 研究発表

### 【第1分科会】

- (1) 10:30 「生徒の個性を伸ばす共生の教育をめざして」  
西脇市立西脇東中学校 松橋明子
- (2) 11:15 「城が山に萌える視障者の群像」  
甲南女子大学 上山 勝

### 【第2分科会】

- (1) 10:30 「新聞にみる関東大震災下の朝鮮人虐殺と官憲の対応」  
奈良県立耳成高等学校 今澤幸代
- (2) 11:15 「丹波国多紀郡における浄土真宗の特質」  
兵庫教育大学連合大学院 和田幸司

## シンポジウム パネラー発表要旨 -----

### テーマ 「今、人権教育の意義を問う」

#### 「市民主体の人権啓発をめざして」

和歌山県人権啓発センター 岡 哲司

私ども和歌山県人権啓発センターが、人権啓発を展開していくうえで非常に大切にしていること、まず、当事者の声を届けるということ、現場を大切にすることです。人権問題というのは非常に個別具体的なものであるのですからその当事者の視点が非常に重要です。次に、NPO等民間団体とともに事業を展開していくこと。人権に関わる活動を展開しているのは何も当センターだけではありません。まさに草の根で活動している団体とつながることで市民主役の人権啓発をめざしています。そして、ネットワークをつくりながら事業を展開していくことです。つながるということがこれからの活動の大きな推進力になっていくと考えています。

#### 「差別事象を直接取り上げる人権教育・啓発を！」

大阪市立住吉人権文化センター 白井俊一

##### 〔1〕人権教育の構造

- ① 生命と魂の尊厳への慈しみ
  - ・ 自尊感情（自信）・・・エンパワメント教育
- ② コミュニケーション能力の回復（安心）
  - ・ 依存しあう人間関係から主体的、自律的關係づくり（多様性と共生）
- ③ 合理主義、科学的知識の獲得（自由）
  - ・ 社会分析＋自己理解：社会のなかでの自分の位置を理解する（偏見への気づき）
- ④ 社会的、歴史的使命の自覚（参加）
  - ・ 共同体感覚の醸成と学びの行動化（協働参画社会参加）

図《人権教育の課題》

外 面	内 面
③合理主義 科学的知識 (自由)	④社会変革 使命の自覚 (参加)
私	共同体
①命と魂 生きる意味 (自信)	②人間関係 協働的対話 (安心)

##### 〔2〕人権教育の緊急課題

- ① 多数派集団による偏見（見えない差別意識）への気づき、実際の差別事象を直接取り上げた「教育・啓発」

#### 「同和教育の視点からみた人権教育の在り方」

京都市総合教育センター 外川正明

「人権教育のための国連10年」を契機に「同和教育から人権教育へ」という大きな流れが、加速度的に進んだ。本来、「部落の子どもたちの教育の権利を保障すること」を課題として始まった戦後同和教育は、その課題達成のために「すべての人々に部落問題への正しい理解と認識を広げる」という第二の課題に取り組んできた。ならば、この10年の取組の中で、同和教育の本質的課題は解決されたのであろうか。また、この被差別者の教育権の保障という視点は、人権教育の中で普遍化されたのだろうか。子どもたちが置かれている現実を見つめることから、改めて人権教育、同和教育、そして公教育の在り方を問い直したい。

#### 「人権教育の世界的動向とわが国の人権教育の在り方」

筑波大学 福田 弘

「人権教育啓発推進法」や「基本計画」を受けて、「人権教育の指導方法等に関する調査研究会議」（文部科学省）が発足し、審議が続けられている。本報告では、さまざまな論点を踏まえて、わが国の学校における人権教育は今後どうあるべきかに関する私見を提示したい。その際に、ヨーロッパ評議会の人権教育活動等の分析を中心に人権教育の国際的動向について検討したうえで、国際社会における人権教育の水準等に照らしてわが国の人権教育の在り方を考察し、同時にまた日本固有の課題や問題等についても考察したい。